

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772600959
法人名	けいはん医療生活協同組合
事業所名	グループホーム みどり
訪問調査日	平成 19 年 11 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 16 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2772600959
法人名	けいはん医療生活共同組合
事業所名	グループホーム みどり
所在地	門真市城垣町2番33号 (電話) 072-884-6367

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号
訪問調査日	平成19年11月22日 評価確定日 平成20年1月16日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 4 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	9, 6

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5階建ての 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 600円
	夕食	600 円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月10日 現在)

利用者人数	9 名	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2		1 名
要介護3	6 名	要介護4		0 名
要介護5	0 名	要支援2		0 名
年齢	平均 87.8 歳	最低 85 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	けいはん医療生活協同組合みどり診療所	松下歯科
---------	--------------------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

だれもが自分らしい生き方を・いのちと人権を尊重する介護・安全安心の質の高い介護・介護を受ける権利を守り発展させることを目標に、1階の診療所(内科・整形外科・リハビリ科・リウマチ科)と、3階の小規模短期入所施設との連携、交流を蜜にして、“いいあんばい”の日々を創り出す努力を重ねている。医療生活協同組合という傘の下での優位性を活かしながら、地域組合員の願いである地域に根ざした医療福祉の拡充と、まちづくりの拠点としての役割を意識しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①コミュニケーションが困難な入居者への対応策については、認知症介護についての詳細なマニュアルの作成と実施。②1階入り口の施錠については、幹線道路に直面と構造上(4階)の見地から施錠は続いている。③入居者と一緒に和やかな食事については、職員持参の弁当、時には献立の余裕を活かしての同食で会話のある食事を楽しんでいるが、入居者・職員が同じ内容と味を楽しむ食事への努力を望む。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎日のミニカンファレンス、個人力量チェック表、毎月はじめのスタッフ会議などでの情報や内容を集約、精査して管理者が作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	奇数月の第4月曜日に開催しているが、自治会長、民生委員の参加は捗々しくない。地域包括支援センター職員の適切な助言を得てのいろいろな取り組みは成果をみている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者1名を除いては、家族の住まいが比較的近距離にあり、家族の訪問に意見や要望を聞いて、時間を置かずミニカンファレンスやスタッフ会で検討し対応している。意見箱の設置を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流は進展していない、老人会也未加入である。地域組合員の訪問は随時あり、近くの神社の祭や地域の盆踊り、小学校のフェスティバルへは参加している。幼稚園送迎バスの待合所としているホーム入りを開放し、雨天時には中に入って貰うなど地域との関わりを深めるための働きかけをしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療と介護を一体としたサービスをまちのすみずみまで広げ、地域での健康づくりと、明るいまちづくりの拠点としての役割をはたす、を基本とした法人の理念を共有している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミニカンファレンスなどで、常に“ふりかえり”を行い実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に2回発行する「虹のニュース」を、利用者の散歩の機会を活かして近隣全戸に配布している。近くの神社の祭には、事前準備や清掃の手伝いに職員も参加して地域との交流に努めているが、老人会には未だに加入できていない。	○	入居者3名のデイサービス通所など、あらゆる機会を捉えて地域との交流を図ることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所及び各職員が、役割マトリックスに沿った目標及び具体的項目を設定して達成度のチェックを行い、評価との関係性を活かして改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第4土曜日に会議を設定している。主に包括支援センター職員の助言がサービス向上に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域連合「くすの木」との兼ね合いもあり、市との関係性は薄く、具体的な要望・苦情は持ち込んでいない。	○	市には保険者としての責任があることを認識し、包括支援センター職員との良好な関係を活かして、市担当部所との交流を図ることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人を除き、他は近在の家族が比較的多いので、細かい情報伝達はできている。遠方の家族には必要に応じてその都度連絡するように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会や随時の家族訪問時の懇談などでの意見・要望を受け入れている。意見箱の設置を考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所3年半を経て、職員体制に漸く落ち着きが出てきている。入り口に職員の写真を掲示するなど、“なじみ”への工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間計画に沿った職員研修や3階ショートステイ部門との共同研修を毎月実施している。受講料補助にて、医療生協による通信教育を職員全員が受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国医療生協の年4回の責任者会議への出席はあるが、地域での同業者などとの交流機会は殆ど無い状態である。	○	交流を通じて得るものの大きいことを認識し、情報収集を図り積極的な交流の機会作りを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開所からの満床に加えて、本人・家族に余裕の無い状態での入居待機者が、施設(老健・ショートステイなど)から直行してくるのが現状である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意思と人権を尊重し、常に利用者の立場に立ってをモットーに、スタッフは利用者のお手伝いをしながら、一緒に“いいあんばい”の日常生活を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの残存する機能(心身ともの)を大切に、利用者の希望と意向を日々確認しながら“いいあんばい”の暮らしをつくっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の意向を慎重し、且つ丁寧に把握して、必要な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のミニカンファレンス、月1回のモニタリングで変化を適切にキャッチし、1階の診療所と連携して必要な見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設診療所との連携がよく行われ、3階ショートステイのスタッフも顔なじみで、合同行事がスムーズに行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所の医師が主治医となっているので、一般的医療については心強いものがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・医師・ケアマネ・責任者との話し合いで、急変時の対応については、文書化し、説明をして家族の同意書を得ている。ホームでの看取りについては、職員のメンタルケアの面で簡単に導入は出来ないとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇の仕方やことばかけについて、ホーム独自のマニュアルを作成し実施している。個人情報については研修を行い十分に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など、個人の体調、希望に合わせて、“いいあんばい”の暮らしかたをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と日曜日の昼・夕食は入居者の希望をいれての手作りにし、それ以外はチルド状態の完成品を購入している。盛り付け、配膳、片付けなどは入居者の状態に応じて職員と一緒に作業している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の希望に合わせて時間帯を調節している。毎日入浴できる体制を整えて、利用者が2日に1回は入浴するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域組合員のボランティアによる話し相手、腹話術などの訪問がある。季節・天候を選んで屋上での食事やおやつの時間に“懐かしのメロディ”の合唱を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物など希望によって個人またはグループで外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口の施錠については、立地条件、構造上の問題(4階の居住区)などからある程度理解はできる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練については消防署の助言により、防火扉の外への誘導を主に訓練している。地域組合員との避難訓練計画はあるが、地域防災組織の協力は得られていない。	○	あらゆる災害に備えて、地域の防災組織との連携を構築する必要がある。買い物マップへの公的な避難場所の書き込みを提案する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のチェック表で確認し、毎月のモニタリングで介護計画書への反映を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭にある季節の花と洗濯物が風に揺れている様子は家庭の雰囲気があり、心が和む。トイレ、洗面台の清掃も行き届いており、全体に明るく清潔な居住空間である。個室入り口の名札にも工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光もよく、利用者のなじみの品物などの持込もあって個性のある居室風景である。		